

## 6 平成26年の自殺の状況

### (1) 平成26年における自殺の概要

平成26年における我が国の自殺の状況について、自殺統計によると（第1-16表）、26年の自殺者数（第1-16-1表）は2万5,427人で、前年に比べ1,856人（6.8%）減少した。性別では、男性が1万7,386人で全体の68.4%を占めた。

年齢別の状況についてみると（第1-16-2表）、「60歳代」が4,325人で全体の17.0%を占め、次いで「40歳代」（4,234人、16.7%）、「50歳代」（4,181人、16.4%）、「70歳代」（3,508人、13.8%）の順となっている。前年と比べて、全ての年齢階級で自殺者数が減少している。

職業別の状況についてみると（第1-16-3表）、「無職者」が1万5,163人で全体の59.6%

を占めて最も多く、次いで「被雇用者・勤め人」（7,164人、28.2%）、「自営業・家族従業者」（1,840人、7.2%）、「学生・生徒等」（874人、3.4%）の順となっており、この順位は前年と同じである。前年と比べて、全ての職業で自殺者数が減少している。

原因・動機別の状況についてみると（第1-16-4表）、原因・動機特定者は1万9,025人（74.8%）であり、そのうち原因・動機が「健康問題」にあるものが1万2,920人で最も多く、次いで「経済・生活問題」（4,144人）、「家庭問題」（3,644人）、「勤務問題」（2,227人）の順となっており、この順位は前年と同じである。また、前年と比べて、全ての原因・動機で自殺者数が減少している。

## 第1-16表 自殺者の年次比較

第1-16-1表 総数

(単位：人)

	総数			成人			少年			不詳	男		女	
	男	女		男	女		男	女			男	女	男	女
平成26年 (構成比)	25,427 (100.0%)	17,386 (68.4%)	8,041 (31.6%)	24,802 (100.0%)	16,939 (68.3%)	7,863 (31.7%)	538 (100.0%)	373 (69.3%)	165 (30.7%)	87 (100.0%)	74 (85.1%)	13 (14.9%)		
平成25年 (構成比)	27,283 (100.0%)	18,787 (68.9%)	8,496 (31.1%)	26,613 (100.0%)	18,305 (68.8%)	8,308 (31.2%)	547 (100.0%)	374 (68.4%)	173 (31.6%)	123 (100.0%)	108 (87.8%)	15 (12.2%)		
増減数 (構成比)	-1,856 -	-1,401 (-0.5)	-455 (+0.5)	-1,811 -	-1,366 (-0.5)	-445 (+0.5)	-9 -	-1 (+1.0)	-8 (-1.0)	-36 -	-34 (-2.7)	-2 (+2.7)		
増減率(%)	-6.8	-7.5	-5.4	-6.8	-7.5	-5.4	-1.6	-0.3	-4.6	-29.3	-31.5	-13.3		

第1-16-2表 年齢階級別自殺者数

(単位：人)

	総数	成人								少年 ～19歳	不詳
		20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～			
平成26年 (構成比)	25,427 (100.0%)	2,684 (10.6%)	3,413 (13.4%)	4,234 (16.7%)	4,181 (16.4%)	4,325 (17.0%)	3,508 (13.8%)	2,457 (9.7%)	538 (2.1%)	87 (0.3%)	
平成25年 (構成比)	27,283 (100.0%)	2,801 (10.3%)	3,705 (13.6%)	4,589 (16.8%)	4,484 (16.4%)	4,716 (17.3%)	3,785 (13.9%)	2,533 (9.3%)	547 (2.0%)	123 (0.5%)	
増減数 (構成比)	-1,856 -	-117 (0.3)	-292 (-0.2)	-355 (-0.2)	-303 (0)	-391 (-0.3)	-277 (-0.1)	-76 (+0.4)	-9 (0.1)	-36 (-0.1)	
増減率(%)	-6.8	-4.2	-7.9	-7.7	-6.8	-8.3	-7.3	-3.0	-1.6	-29.3	

第1-16-3表 職業別自殺者数

(単位：人)

	総数	自営業・ 家族従業者	被雇用者 ・勤め人	無職		不詳
				学生・生徒等	無職者	
平成26年 (構成比)	25,427 (100.0%)	1,840 (7.2%)	7,164 (28.2%)	874 (3.4%)	15,163 (59.6%)	386 (1.5%)
平成25年 (構成比)	27,283 (100.0%)	2,129 (7.8%)	7,272 (26.7%)	918 (3.4%)	16,465 (60.3%)	499 (1.8%)
増減数 (構成比)	-1,856 -	-289 (-0.6)	-108 (1.5)	-44 (0.1)	-1,302 (-0.7)	-113 (-0.3)
増減率(%)	-6.8	-13.6	-1.5	-4.8	-7.9	-22.6

第1-16-4表 原因・動機別自殺者数

(単位：人)

	総数	原因・動機 特定者	原因・動機 不特定者
平成26年 (構成比)	25,427 (100.0%)	19,025 (74.8%)	6,402 (25.2%)
平成25年 (構成比)	27,283 (100.0%)	20,256 (74.2%)	7,027 (25.8%)
増減数 (構成比)	-1,856 -	-1,231 (+0.6)	-625 (-0.6)
増減率(%)	-6.8	-6.1	-8.9

(単位：人)

	原因・動機特定者の原因・動機別						
	家庭問題	健康問題	経済・生活問題	勤務問題	男女問題	学校問題	その他
平成26年	3,644	12,920	4,144	2,227	875	372	1,351
平成25年	3,930	13,680	4,636	2,323	912	375	1,462
増減数	-286	-760	-492	-96	-37	-3	-111
増減率(%)	-7.3	-5.6	-10.6	-4.1	-4.1	-0.8	-7.6

注) 遺書等の自殺を裏付ける資料により明らかに推定できる原因・動機を自殺者一人につき3つまで計上可能としているため、原因・動機特定者の原因・動機別の和と原因・動機特定者数(平成25年は20,256人、26年は19,025人)とは一致しない。

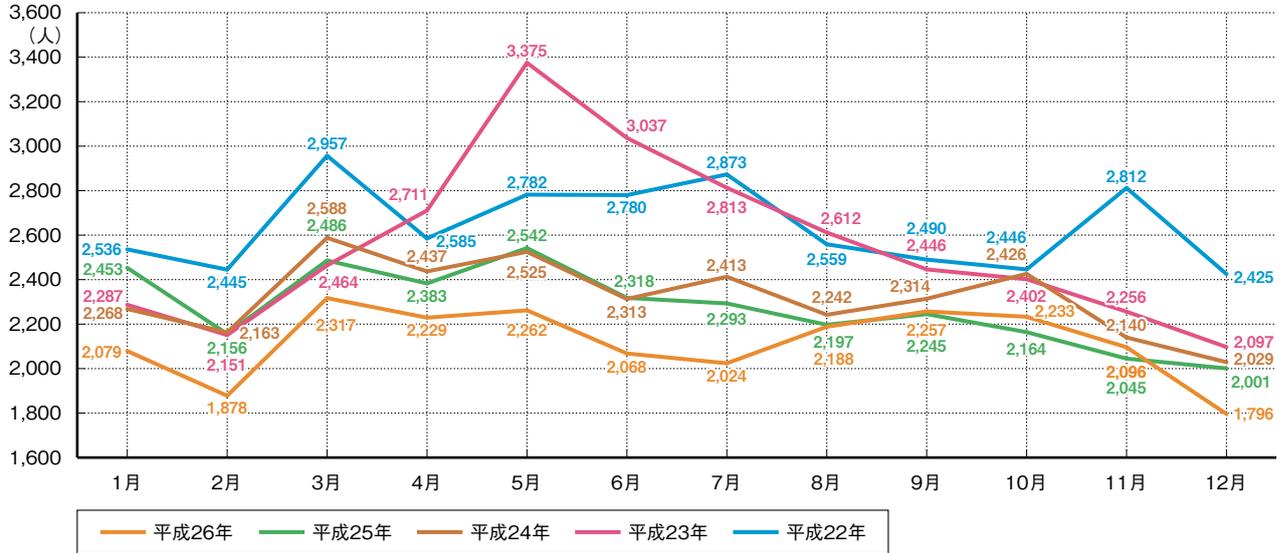
資料：内閣府・警察庁「平成26年中における自殺の状況」

(2) 月別自殺者数の推移

平成26年における月別自殺者数の推移をみると、自殺統計によれば(第1-17図)、「3月」

が最も多く、「12月」が最も少なくなっている。また、前年と比べて9月、10月、11月を除いて、同月の自殺者数を下回った。

第1-17図 月別自殺者数の推移

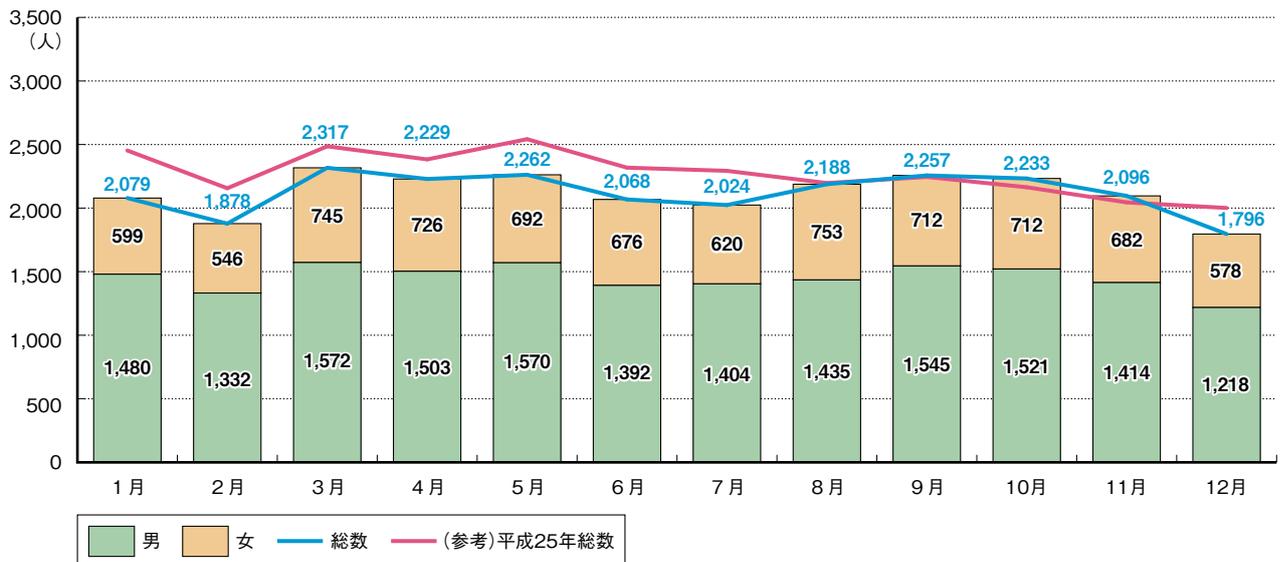


資料：警察庁「自殺統計」より内閣府作成

また、男女別の月別の自殺者数の推移をみると、自殺統計によれば(第1-18図)、男性は「3月」、女性は「8月」に自殺者数が最

も多くなっている。また、男性では「12月」、女性では「2月」に自殺者数が最も少なくなっている。

第1-18図 平成26年における死亡月別の自殺者数

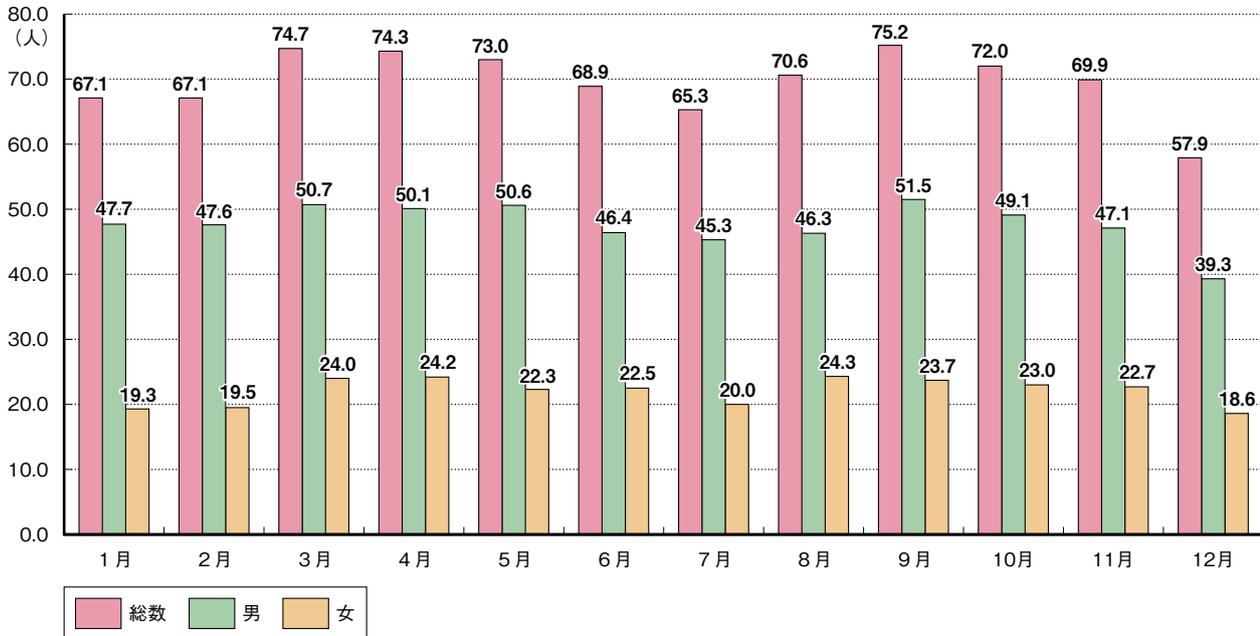


資料：警察庁「自殺統計」より内閣府作成

1 か月間の日数の影響を排除するため、平成26年における月別の一日平均自殺者数をみると、自殺統計によれば(第1-19図)、「9月」

が最も多くなっており、「12月」が最も少なくなっている。

第1-19図 平成26年における月別の一日平均自殺者数



資料：警察庁「自殺統計」より内閣府作成

### (3) 男女別の状況

平成26年における男女別の自殺者数の状況をみると、自殺統計によれば（第1-20図）、自殺者全体の男女別構成比は男性が68.4%となっており、男性が7割を若干下回っている。

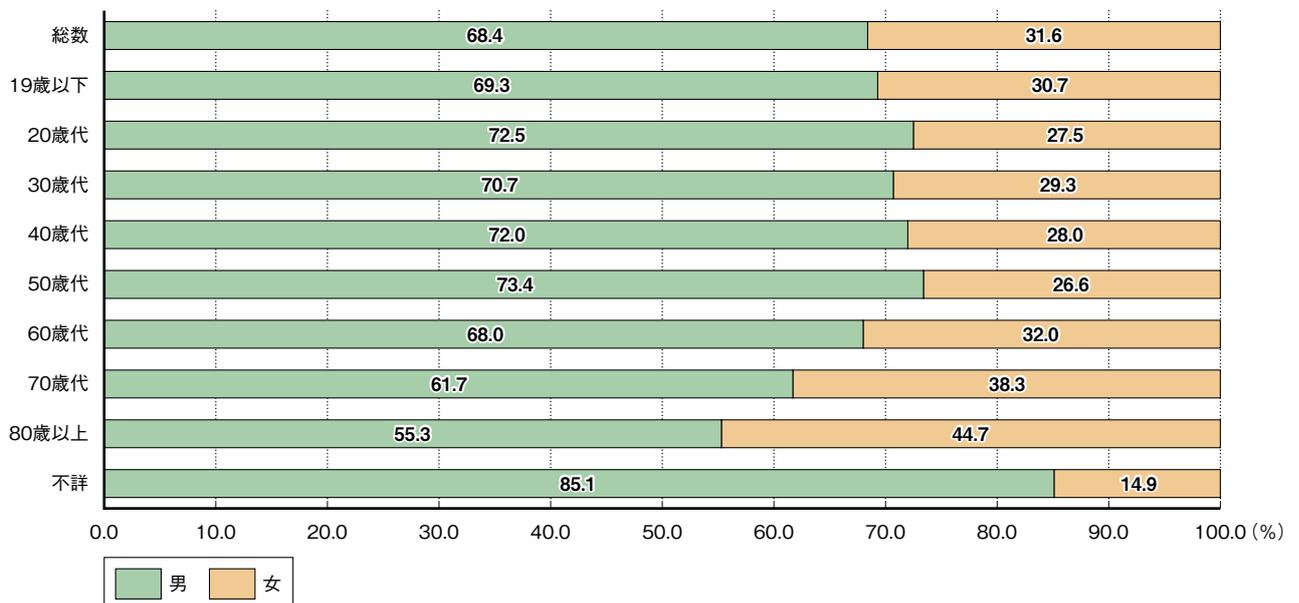
また、年齢階級別にみると（第1-21図）、全ての階級において男性の占める割合が高く、特に20歳代から50歳代までは男性が7割を超えている。

第1-20図 自殺者の男女別構成比の推移



資料：警察庁「自殺統計」より内閣府作成

第1-21図 平成26年における男女別の年齢階級別の自殺者数の構成割合



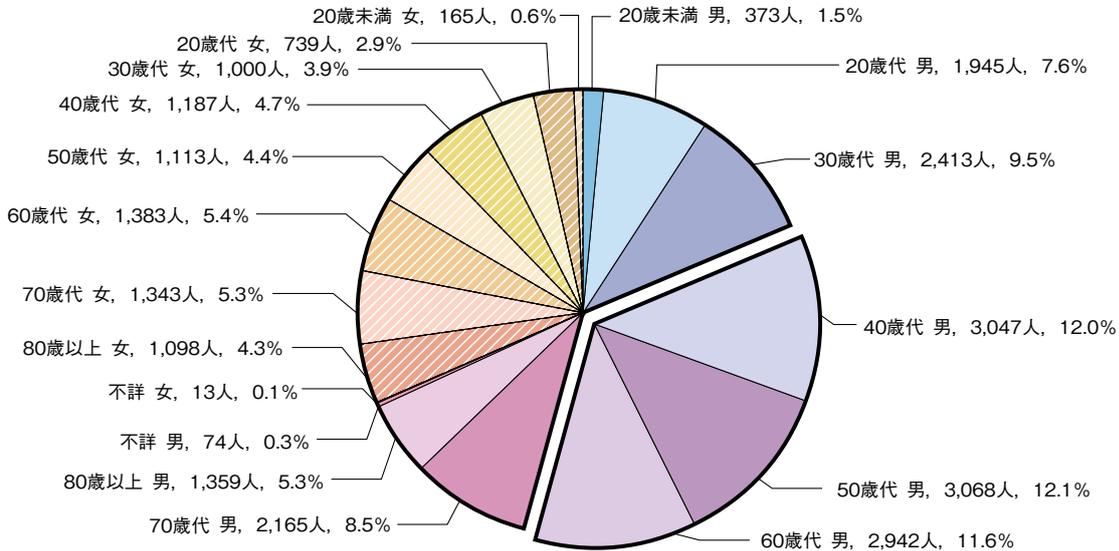
資料：警察庁「自殺統計」より内閣府作成

(4) 年齢階級別の状況

平成26年における年齢階級別の自殺者数をみると、自殺統計によれば（第1-22図）、(1)

で述べたとおり60歳代が最も多いが、さらに、男女別でみると、40歳代から60歳代の男性で全体の約4割近くを占めている。

第1-22図 平成26年における男女別の年齢階級別の自殺者数の構成割合



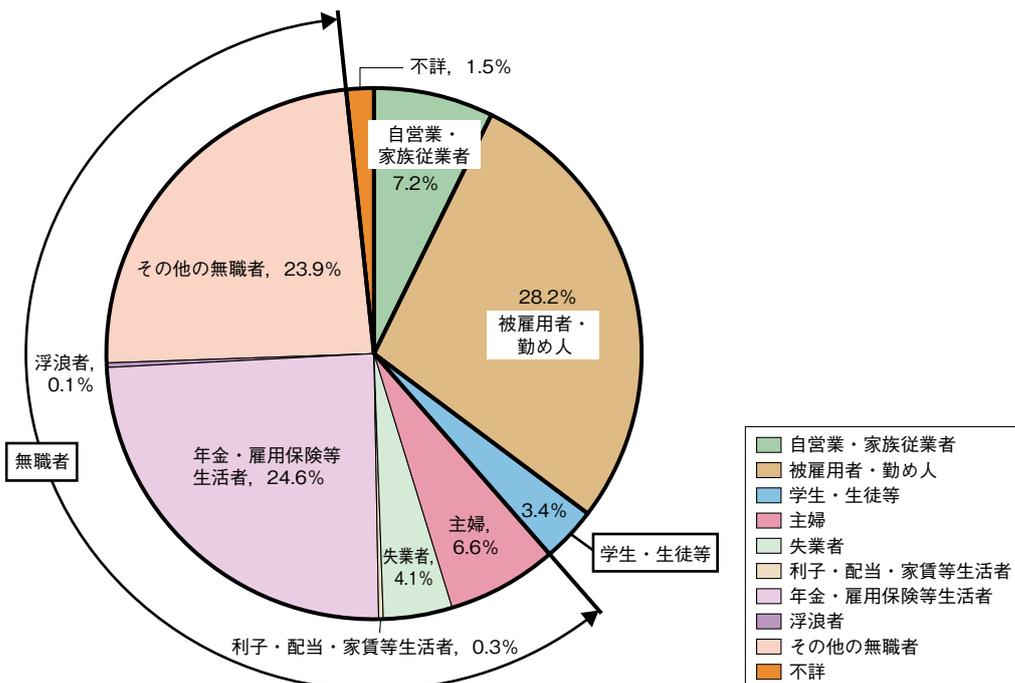
資料：警察庁「自殺統計」より内閣府作成

(5) 職業別の状況

平成26年の職業別の自殺の状況をみると、自殺統計によれば（第1-23図）、(1)で述べたとおり「無職者」が最も多い。「無職者」の

内訳をみると、「年金・雇用保険等生活者」が最も多く、次いで「その他の無職者」、「主婦」、「失業者」の順となっている。

第1-23図 平成26年における職業別自殺者数の構成割合



資料：警察庁「自殺統計」より内閣府作成

さらに、年齢別、職業別の自殺者数をみると、自殺統計によれば（第1-24表）、総数では「40歳代」・「50歳代」・「60歳代」が4千人以上となっており自殺者数が多くなっているが、「自営業・家族従業者」では「50歳代」と「60歳代」、「被雇用者・勤め人」では「30

歳代」と「40歳代」、「無職者」では「60歳代」と「70歳代」が多いなど、職業によって自殺者数の多い年代が異なる。なお、「無職者」のうち最も割合の高い「年金・雇用保険等生活者」は「60歳代」、「70歳代」及び「80歳以上」で1,500人以上となり多くなっている。

第1-24表 年齢別、職業別自殺者数

職業別		年齢階級別										
		～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～	不詳	合計	
合計	計	538	2,684	3,413	4,234	4,181	4,325	3,508	2,457	87	25,427	
	男	373	1,945	2,413	3,047	3,068	2,942	2,165	1,359	74	17,386	
	女	165	739	1,000	1,187	1,113	1,383	1,343	1,098	13	8,041	
自営業・家族従業者	計	1	39	150	314	472	524	263	77	0	1,840	
	男	1	37	135	290	427	459	219	63	0	1,631	
	女	0	2	15	24	45	65	44	14	0	209	
被雇用者・勤め人	計	55	1,196	1,641	1,830	1,597	693	128	24	0	7,164	
	男	42	916	1,326	1,522	1,373	591	109	20	0	5,899	
	女	13	280	315	308	224	102	19	4	0	1,265	
無職	学生・生徒等	計	426	428	16	4	0	0	0	0	0	874
		男	297	344	13	4	0	0	0	0	0	658
		女	129	84	3	0	0	0	0	0	0	216
	無職者	計	56	991	1,561	2,018	2,045	3,046	3,093	2,353	0	15,163
		男	33	628	902	1,171	1,206	1,836	1,816	1,274	0	8,866
		女	23	363	659	847	839	1,210	1,277	1,079	0	6,297
	主婦	計	1	31	197	357	395	412	216	71	0	1,680
		男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	1	31	197	357	395	412	216	71	0	1,680
	失業者	計	2	122	227	301	302	82	16	0	0	1,052
		男	1	100	200	276	274	79	13	0	0	943
		女	1	22	27	25	28	3	3	0	0	109
	年金・雇用保険等生活者	計	0	37	101	199	215	1,605	2,249	1,844	0	6,250
		男	0	23	53	132	148	1,065	1,418	1,031	0	3,870
		女	0	14	48	67	67	540	831	813	0	2,380
その他の無職者	計	53	797	1,034	1,147	1,109	915	596	429	0	6,080	
	男	32	501	647	751	764	668	374	240	0	3,977	
	女	21	296	387	396	345	247	222	189	0	2,103	
不詳	計	0	30	45	68	67	62	24	3	87	386	
	男	0	20	37	60	62	56	21	2	74	332	
	女	0	10	8	8	5	6	3	1	13	54	

注) 無職者のうち、主婦、失業者、年金・雇用保険等生活者、その他の無職者の4区分については当該区分の数値のみ無職者の内数として別立てで表記しているため、無職者の総数と上記4区分の数値の合計は一致しない。

資料：内閣府・警察庁「平成26年中における自殺の状況」

## (6) 原因・動機別の状況

平成26年における年齢別、原因・動機別の自殺者数をみると、自殺統計によれば（第1-25表）、「家庭問題」は男女とも「40歳代」と「50歳代」が多い。「健康問題」については、「60歳代」と「70歳代」が多い。「経済・生活問題」については、男性の方が女性よりも

著しく多く、中でも「40歳代」と「50歳代」が多い。「勤務問題」については、「30歳代」と「40歳代」で多く、男性は「30歳代」と「40歳代」が多いが、女性は「20歳代」と「40歳代」が多い。「男女問題」は「20歳代」と「30歳代」で多く、「学校問題」は「19歳以下」と「20歳代」が多い。

第1-25表 年齢別、原因・動機別自殺者数

原因・動機別	年齢階級別	～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～	不詳	合計
		計	483	2,679	3,513	4,471	4,436	4,359	3,352	2,238	2
合計	男	316	1,873	2,387	3,160	3,227	2,947	2,003	1,223	1	17,137
	女	167	806	1,126	1,311	1,209	1,412	1,349	1,015	1	8,396
家庭問題	計	82	281	520	650	631	577	524	379	0	3,644
	男	50	188	294	415	404	365	301	210	0	2,227
	女	32	93	226	235	227	212	223	169	0	1,417
健康問題	計	104	905	1,438	1,995	1,988	2,535	2,325	1,630	0	12,920
	男	51	503	798	1,150	1,196	1,500	1,337	883	0	7,418
	女	53	402	640	845	792	1,035	988	747	0	5,502
経済・生活問題	計	16	397	564	872	1,110	847	280	57	1	4,144
	男	14	355	503	800	1,000	754	221	40	1	3,688
	女	2	42	61	72	110	93	59	17	0	456
勤務問題	計	20	441	509	582	479	164	30	2	0	2,227
	男	13	368	459	520	445	155	26	2	0	1,988
	女	7	73	50	62	34	9	4	0	0	239
男女問題	計	45	278	276	192	51	20	11	2	0	875
	男	24	167	167	140	36	15	5	1	0	555
	女	21	111	109	52	15	5	6	1	0	320
学校問題	計	167	200	4	1	0	0	0	0	0	372
	男	129	166	4	1	0	0	0	0	0	300
	女	38	34	0	0	0	0	0	0	0	72
その他	計	49	177	202	179	177	216	182	168	1	1,351
	男	35	126	162	134	146	158	113	87	0	961
	女	14	51	40	45	31	58	69	81	1	390

注) 遺書等の自殺を裏付ける資料により明らかに推定できる原因・動機を自殺者一人につき3つまで計上可能としているため、原因・動機特定者の原因・動機別の和と原因・動機特定者数(19,025人)とは一致しない。

資料：内閣府・警察庁「平成26年中における自殺の状況」

職業別、原因・動機別の状況をみると、自殺統計によれば（第1-26表）、自営業・家族従業者は「経済・生活問題」と「健康問題」が多く、被雇用者・勤め人は「健康問題」と

「勤務問題」が多い。学生・生徒等は「学校問題」と「健康問題」が多く、無職者は「健康問題」と「家庭問題」が多い。

第1-26表 職業別、原因・動機別自殺者数

原因・動機別	職業別	自営業・ 家族従業者	被雇用者 ・勤め人	学生・ 生徒等	無職					不詳
					無職者	主婦	失業者	年金・ 雇用保険 等生活者	その他の 無職者	
合計	計	1,998	7,487	854	15,036	1,782	1,228	6,121	5,820	158
	男	1,753	6,079	633	8,538	0	1,085	3,692	3,695	134
	女	245	1,408	221	6,498	1,782	143	2,429	2,125	24
家庭問題	計	272	1,062	114	2,175	402	133	901	727	21
	男	225	794	78	1,114	0	116	542	446	16
	女	47	268	36	1,061	402	17	359	281	5
健康問題	計	706	2,376	202	9,587	1,259	395	4,399	3,487	49
	男	586	1,734	134	4,925	0	326	2,589	1,978	39
	女	120	642	68	4,662	1,259	69	1,810	1,509	10
経済・生活問題	計	778	1,280	58	1,973	53	542	404	953	55
	男	717	1,188	51	1,680	0	507	317	835	52
	女	61	92	7	293	53	35	87	118	3
勤務問題	計	137	1,902	4	181	10	56	10	105	3
	男	131	1,719	3	132	0	45	9	78	3
	女	6	183	1	49	10	11	1	27	0
男女問題	計	34	509	70	251	16	40	38	157	11
	男	31	341	45	130	0	35	18	77	8
	女	3	168	25	121	16	5	20	80	3
学校問題	計	0	3	340	28	0	0	0	28	1
	男	0	3	272	24	0	0	0	24	1
	女	0	0	68	4	0	0	0	4	0
その他	計	71	355	66	841	42	62	369	363	18
	男	63	300	50	533	0	56	217	257	15
	女	8	55	16	308	42	6	152	106	3

注) 遺書等の自殺を裏付ける資料により明らかに推定できる原因・動機を自殺者一人につき3つまで計上可能としているため、原因・動機特定者の原因・動機別の和と原因・動機特定者数（19,025人）とは一致しない。

注) 無職者のうち、主婦、失業者、年金・雇用保険等生活者、その他の無職者の4区分については当該区分の数値のみ無職者の内数として別立てで表記しているため、無職者の総数と上記4区分の数値の合計は一致しない。

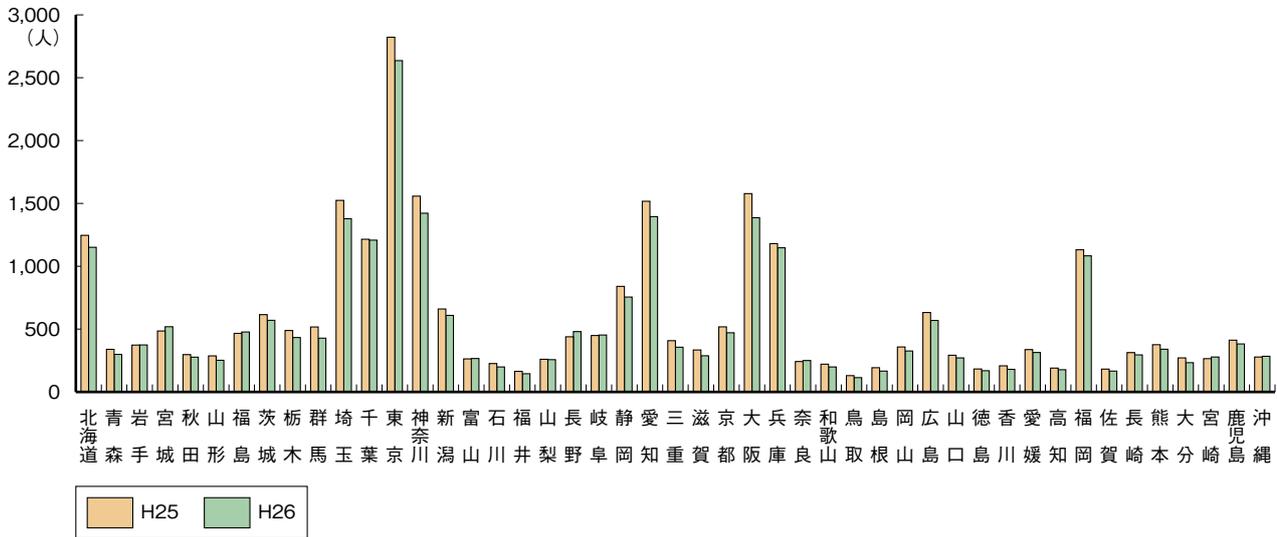
資料：内閣府・警察庁「平成26年中における自殺の状況」

(7) 都道府県別の状況

都道府県別の自殺の状況を見ると、自殺統計によれば、自殺者数については(第1-27図)

前年に比べ、38都道府県で減少、9県で増加となっている。

第1-27図 都道府県別の自殺者数

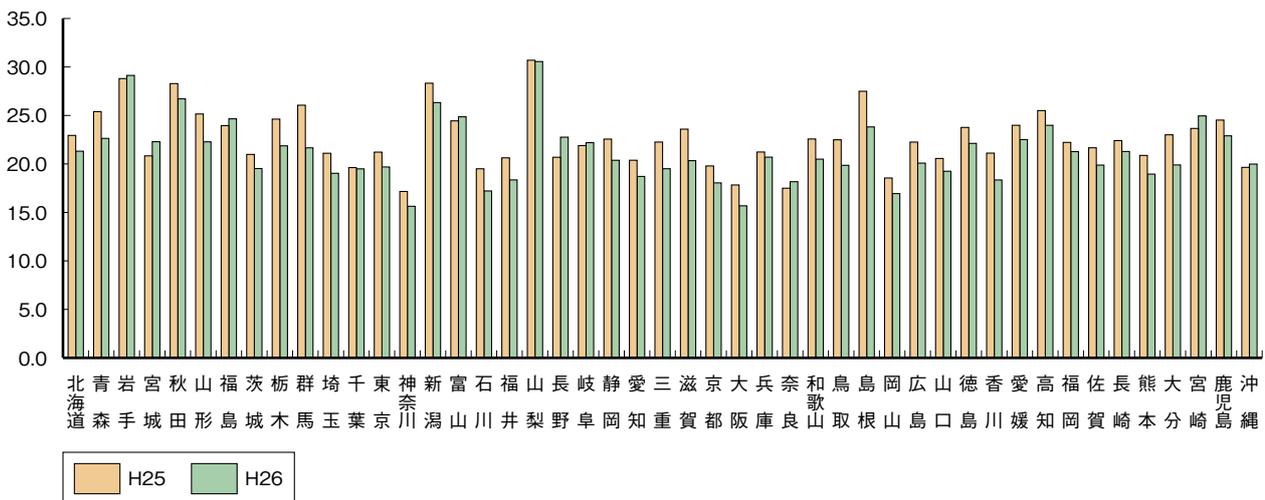


資料：警察庁「自殺統計」より内閣府作成

また、自殺死亡率についてみると(第1-28図)、前年に比べ、38都道府県で低下、

9県で上昇となっている。

第1-28図 都道府県別の自殺死亡率



資料：警察庁「自殺統計」及び総務省「人口推計」より内閣府作成

(8) 手段別の状況

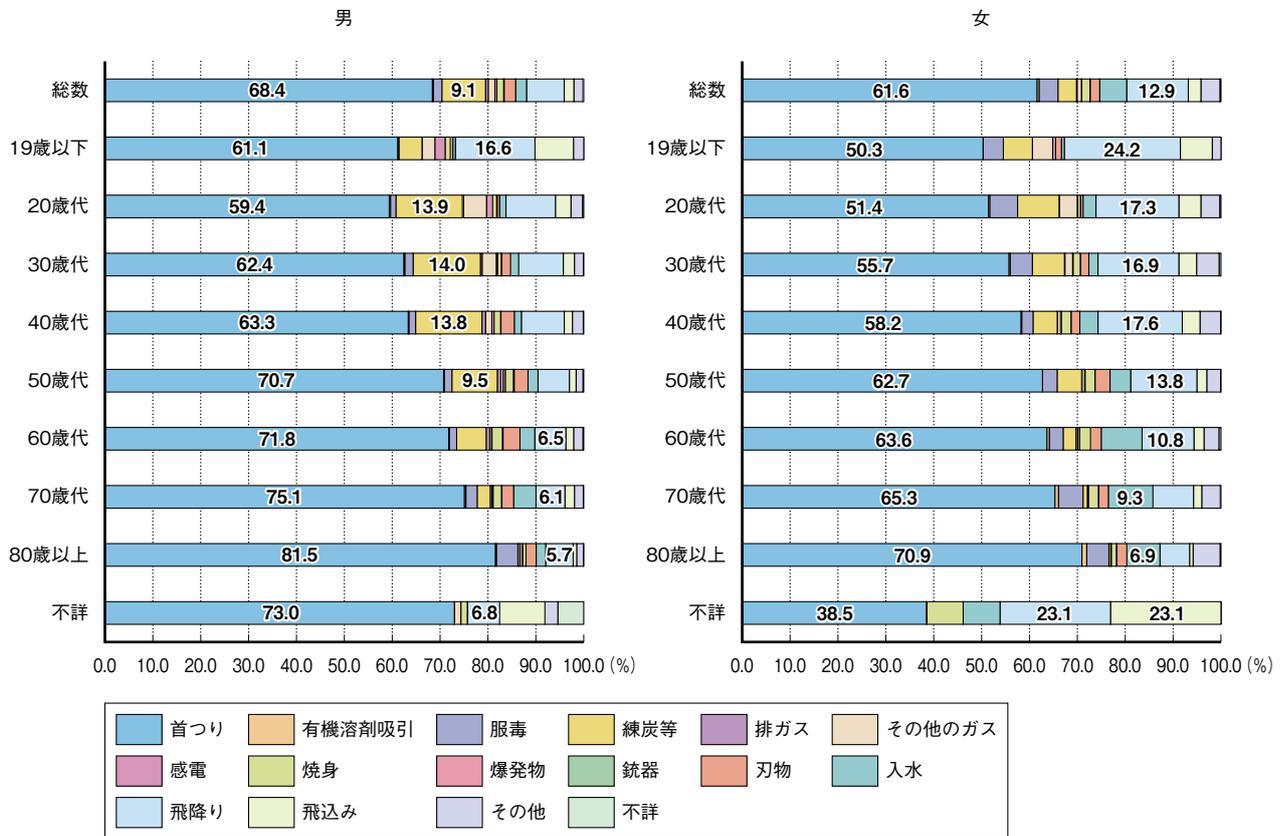
平成26年における手段別の自殺の状況についてみると(第1-29図)、男性では「首つり」(68.4%)が最も多く、次いで「練炭等」(9.1%)、「飛降り」(7.9%)となっており、女性では「首つり」(61.6%)が最も多く、次いで「飛降り」(12.9%)、「入水」(5.6%)となっている。

また、男女別・年齢階級別でみると、男女とも全ての階級で「首つり」が最も多い。男性については、「首つり」に次いで、19歳以

下では「飛降り」、「飛込み」の順で多く、20歳代から50歳代では「練炭等」、「飛降り」の順で多くなっており、60歳代では「飛降り」、「練炭等」、70歳代では「飛降り」、「入水」、80歳以上では「飛降り」、「服毒」の順で多くなっている。

女性については、「首つり」に次いで、60歳代以下では「飛降り」が多く、70歳代以上では「入水」が多くなっている。

第1-29図 平成26年における男女別・年齢階級別(10歳階級)・自殺の手段別の自殺者数の構成割合



資料：警察庁「自殺統計」より内閣府作成

(9) 場所別の状況

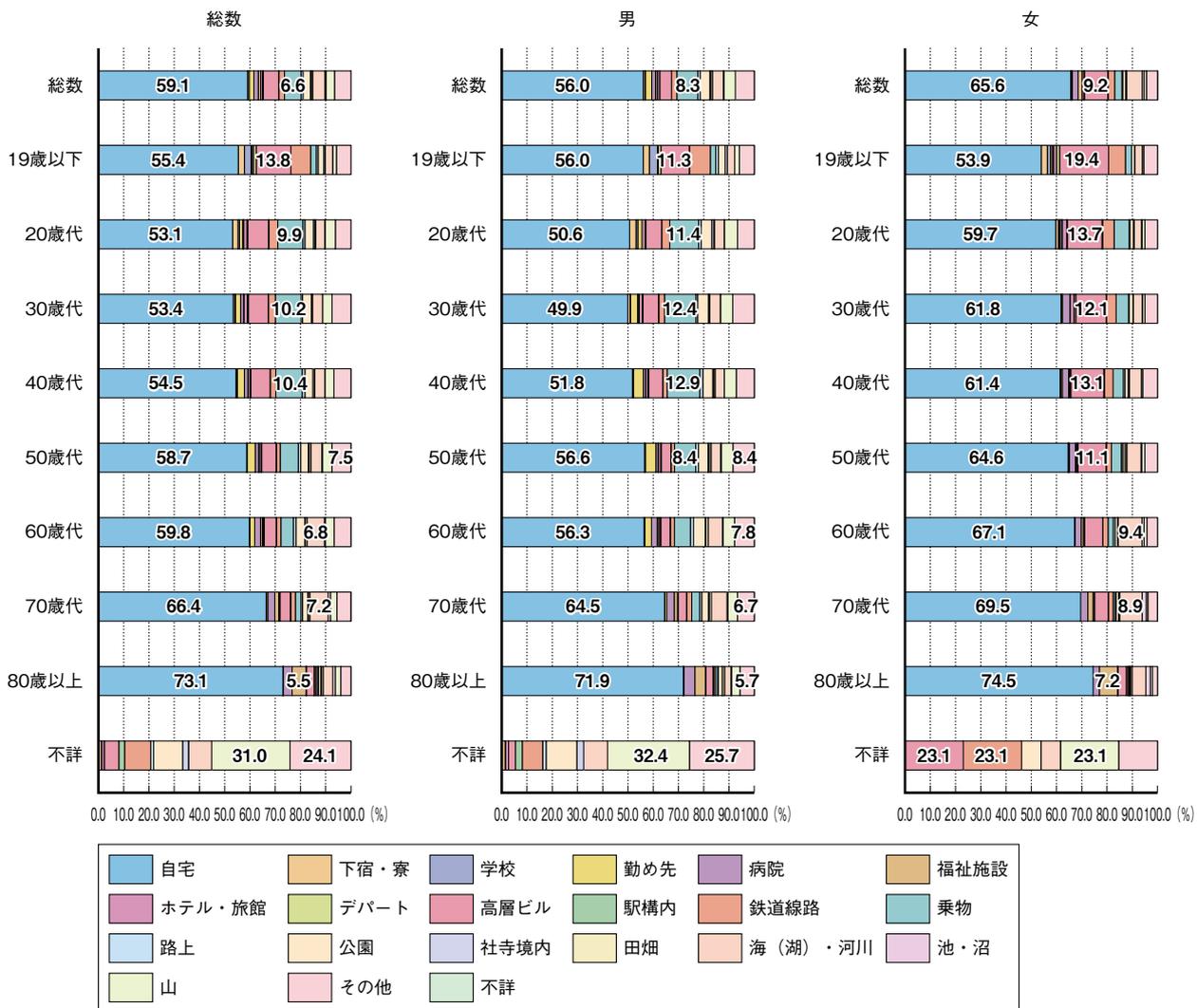
平成26年における場所別の自殺の状況について、自殺統計によれば(第1-30図)、「自宅」(59.1%)が最も多く、次いで、「乗物」(6.6%)、「高層ビル」(6.1%)、「海(湖)・河川」(4.9%)、「山」(3.4%)の順となっている。

男女別にみると、男性については、「自宅」(56.0%)に次いで「乗物」(8.3%)、「高層ビル」(4.7%)、「山」(4.5%)となっている。

女性については、「自宅」(65.6%)に次い

で「高層ビル」(9.2%)、「海(湖)・河川」(6.1%)の順となっている。年齢階級別にみると、男女とも全ての階級において「自宅」が最も多いが、男性については、「自宅」に次いで、19歳以下は「高層ビル」、20歳代から60歳代までは「乗物」、70歳代は「海(湖)・河川」、80歳以上は「病院」となっている。女性については、「自宅」に次いで、50歳代以下は「高層ビル」、60歳代から70歳代までは「海(湖)・河川」、80歳以上は「福祉施設」となっている。

第1-30図 平成26年における男女別・年齢階級別(10歳階級)・自殺の場所別の自殺者数の構成割合



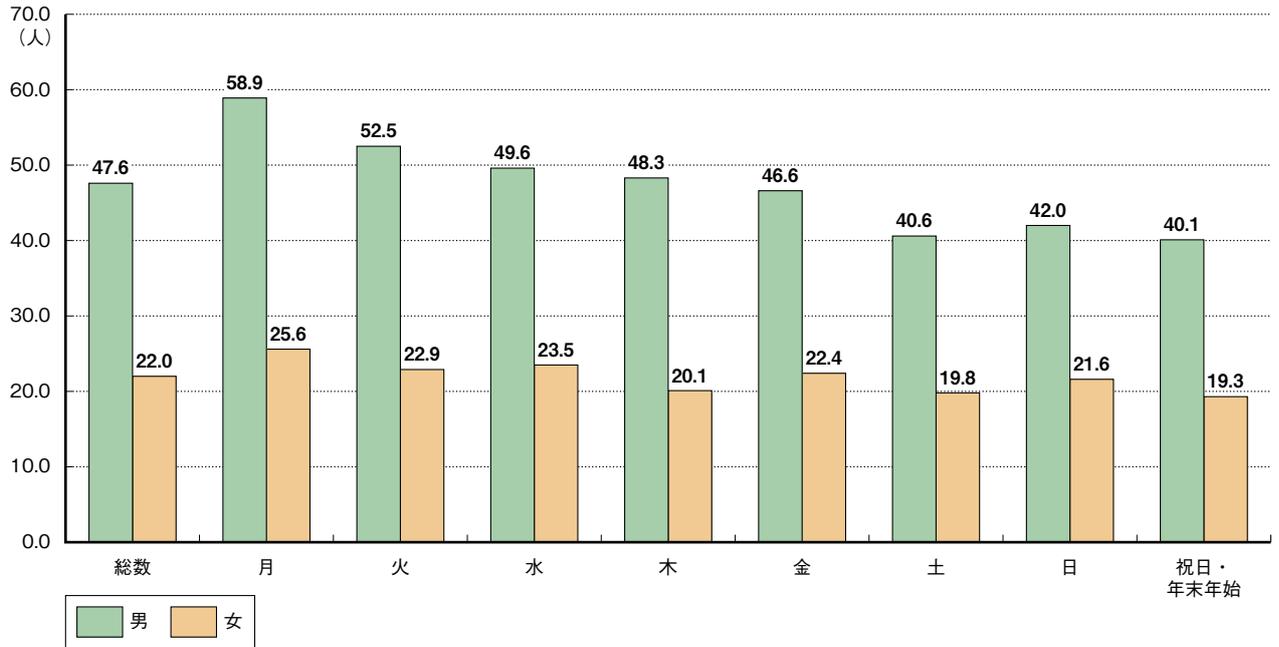
資料：警察庁「自殺統計」より内閣府作成

(10) 曜日・時間別の状況

平成26年における発見曜日別一日平均自殺者数について、自殺統計によれば（第1-31図）、男性、女性共に「月曜日」（男58.9人、女25.6人）が最も多く、次いで男性は「火曜日」

（52.5人）、女性は「水曜日」（23.5人）が多くなっている。また、男性、女性共に「祝日・年末年始」（男40.1人、女19.3人）が最も少なくなっている。

第1-31図 平成26年における発見曜日別一日平均自殺者数

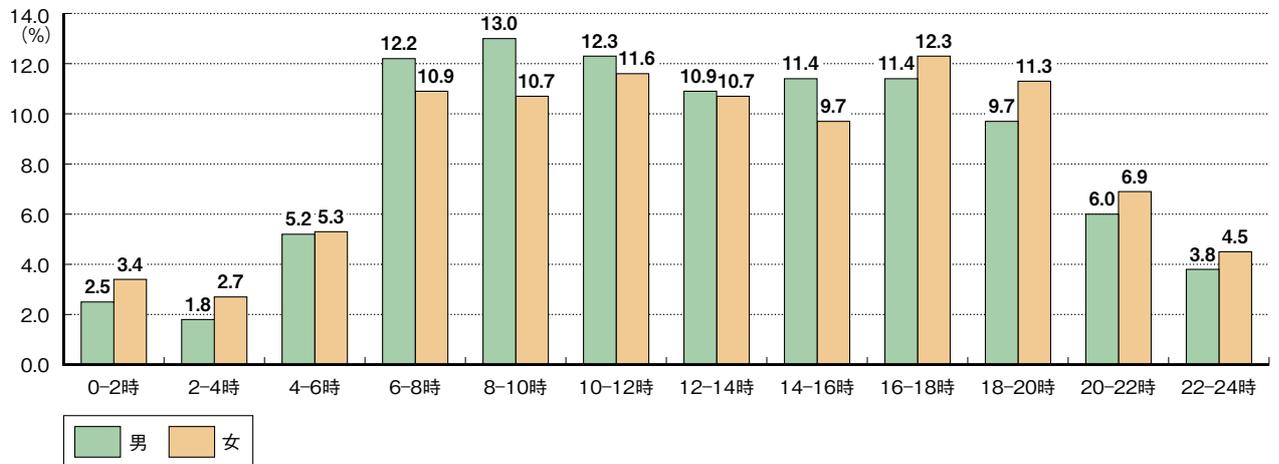


資料：警察庁「自殺統計」より内閣府作成

次に、男女別の発見時間帯別自殺者数の構成割合をみると（第1-32図）、男性では「8

～10時」（13.0%）、女性では「16～18時」（12.3%）が多くなっている。

第1-32図 平成26年における発見時間帯別の自殺者数の構成割合



資料：警察庁「自殺統計」より内閣府作成